

学生相談利用の勧めと援助要請意図および援助要請態度との関連

今 下 美 月

援助や支援を必要とする大学生に対して学生相談による援助サービスをどのように届けるか、という課題解決に向けて援助要請の観点から研究が進められている中で、「周囲からの勧め」が学生相談利用の促進要因の1つである可能性が報告されている。一方で、その効果を「援助要請態度」に着目して検討した研究は見当たらない。そこで、本研究では、友人・家族・教員による学生相談利用の勧めが援助要請意図に与える影響、援助要請態度と勧めが無い場合の援助要請意図および勧めの効果との関連について、悩みの領域（対人・社会面、心理・健康面、修学・進路面）ごとに検討した。大学生・大学院生の計294名を対象に、オンラインで質問紙調査を実施した。

まず、学生相談利用の勧めが援助要請意図に与える影響について検討した結果、いずれの悩みにおいても、友人・家族・教員からの勧めによって、学生相談の利用が促進される可能性が示された。この結果から、学生を取り巻く援助者に対して、問題を抱えた学生に学生相談の利用を勧めることを奨励することの重要性が改めて示唆された。

次に、援助要請態度と勧めが無い場合の援助要請意図との関連について検討した結果、いずれの悩みにおいても、専門性への信頼と期待を強く感じているほど、悩みを抱えた時に学生相談を利用しようと思う気持ちが強い可能性と、心理的援助に無関心であるほど、対人・社会面や心理・健康面の悩みを抱えた時に学生相談を利用しようと思う気持ちが弱い可能性が示された。この結果から、学生相談の利用を促すアプローチとして、心理的援助に対する信頼感や期待を高めることや、心理的援助に対する関心を高めることの重要性が、改めて示唆された。

最後に、援助要請態度と勧めの効果との関連について検討した結果、対人・社会面や心理・健康面の悩みを抱えている場合、心理的援助の有効性に対する期待や専門性に対する信頼が強いほど、家族・教員から学生相談の利用を勧められることの効果が大きい可能性と、心理専門職への援助要請に対する関心が無く、自分とは無縁のことであると捉えたり、具体的なイメージが欠如したりしているほど、友人・家族・教員から学生相談の利用を勧められることの効果が小さい可能性が示された。また、修学・進路面の悩みを抱えている場合、心理専門職に対して援助を求めることの特殊性や非日常性に対する負担感や躊躇を感じているほど、友人から学生相談の利用を勧められることの効果が小さい可能性が示唆された。以上の結果から、学生相談の利用を勧める際には、心理的援助に対する信頼感や期待を高められるように伝えたり、心理的援助に関して具体的な情報を伝えることによってイメージを持たせたり、負担感を減らしたりできるような工夫をすることで、実際の利用に結びつきやすい可能性が示唆された。